別紙２

新潟日報
5/28（土）

遺伝子組み換え稲

31日に田植え実行

中央農研北陸センター 上越で屋外栽培

中央農業総合研究センター北陸研究センター（上越市）は二十七日、耐病性のある遺伝子組み換え稲の屋外栽培実験の田植えを、同センターの試験ほ場で三十一日に行うことを決めた。

実験には県内農家らが反対しており二十七日、近藤正道参院議員のほか、「にいがた食と農と健康、教育ネットワーク」などが同センターに実験中止を要請。えちご上越農協労組の布施辰夫委員長は「合意形成ができるまで、実験を始めないでほしい」などと求めた。

これに対して片山秀策センター長は「近隣の了解は得ている。怖いと言って手をこまねいてはいられない。研究者の使命だ」などと述べた。田植えは一般に公開される。同センターでは六月二十五日に再度、実験の説明会を開く予定。

また、上越有機農業研究会の呼び掛けで五月二十九日午後七時から、上越市頸城区の希望館で実験中止を求める会が開かれる。反対運動の連携、協力態勢を築くのが狙い。問い合わせは同会、０２５（５４７）２２１０。